

学生が南丹朝市マップ

「美山やまさと市を訪問し、にぎわいに触れるメンバーら(南丹市美山町)へエリア提供



南丹市の農業活性化に貢献しようと、京都市の大学生たちが地元住民と連携し、グループ「エリア」を立ち上げた。取り組みの第一歩として「生産者と消費者がつながり食に興味を持つ入り口になる」と、市内で盛んな朝市に注目。開催地などが一覧できる地図作りを進めており、掲載に協力する団体を16日まで募っている。

エリアは、2月に日吉町であった農業のシンポジウムに参加した学生ら6人で構成。活発な議論に触れて「元気の農家が多い地域。関わってみたい」として、シンポに関わった同市の移住サポート団体「つむぎ」のメンバーなどにも加わってもらい、4月に結成した。代表の龍谷大経済学部3年後藤沙耶さん

農業活性化へグループ結成

開催地一覧、掲載団体募る

(21)は長野県出身。近所の人から野菜をもらっていた経験から「農家の顔が見えろと食に興味を湧く」と考え、朝市に着目。日時や場所、アピールなどを載せた「朝市マップ」を企画している。これまでに園部町の「天引むくむく市」や美山町の「美山やまさと市」など8カ所を訪ねた。朝採れ野菜だけでなく加工品も並ぶ豊富な品ぞろえや、テールやたき火を囲んで地域内外の人が会話を楽しむ場にもなっているなど、その魅力に触れた。市内を網羅した地図にしようと、掲載を希望する朝市の運営団体を募っている。学生らが現地取材し、来年1月末に完成させる。市内で配布する予定で後藤さんは「行ったことのない朝市を訪れてみるきっかけになれば」と願っている。申し込みは後藤さん e210214@mail.ryukoku.ac.jp (田中恒輝)